



カンボジアの子どもたちに教育を

2009年11月 No. 31

カンボジア便り

新しいプログラムその1・幼稚園スクールバス

昨年秋に開園したルセイサン小学校附属幼稚園は1年が経過しましたが、園児の数は16、7人で止まっています、当初の目的である小学校入学時の落ちこぼれ防止については、その効果が余り期待出来る状況ではありませんでした。

そこで日本側が、園児増加のための策を色々検討し、「スクールバス」という考えを現地に提案しました。

リティさんを中心に、幼稚園の園長でもあるルセイサン小学校の校長先生と元の校長先生が、幼稚園入園対象となる子供の親御さんと個別に面接した所、非常に評判が良く実施の検討に入りました。

具体的には、村でマイクロバスを持ってハイヤー的な営業をしている人がいるので、このバスを運転手込みで借り上げることになり、月額230ドルで当初6ヶ月の契約ということで現在細部を詰めています。

契約はルセイサン小学校のクム・クーム校長と、バスの持ち主兼運転手のセン・ティさんの間で結ばれ、支払い責任者は日韓アジア基金となります。当会からは、園児の安全に配慮して幼稚園の先生を添乗して貰うことも要請しています。

この話に関連し、大変興味深いことが起こっています。

それは、幼稚園の園児の数が10月から40人を超えたということです。ちょうど新学期というタイミングもありますが、面接をただけで園児の数が急増した訳です。

リティさんは、この原因がバスの話の効果だとの意見なのですが、日本のスタッフは「まだバスが走ってもいないのに」と今一つピンと来ない気持ちでおります。

またこの件の費用対効果に付いても、スタッフ間で色々議論をしましたが、取り敢えず1年間実施して、その間にプログラムの終了の条件も含め検討しようということにしております。(大澤)

～目次～

カンボジアだより	
新しいプログラム	
その1・幼稚園スクールバス	1
その2・小学校不足教科書補填	2
カンボジア訪問記	3
スタッフ紹介	4
ビビンの会のスタッフをして	5
どうして日本が好きなの？	6
会計報告	7
事務連絡	8

新しいプログラムその2・小学校不足教科書補填

私たちの支援地域には二つの公立小学校があります。アジア未来学校の修了生が通うルセイサン小学校と、アジア未来学校の元の先生方が勤めるワット・ハー小学校です。

この両校で教科書が不足しているとの話があり、当会がこの不足分を補填することにし、新学期に合わせ実施しました。

不足教科書の一覧と、生徒への配布の写真をお届けします。

ルセイサン	教科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生			総額・ドル
	クメール語	30	47	40	45	40	0	0	辞書	1
算数	20	47	40	40	40	40	0	短編物語	20	
社会	20	10	10	20	20	20	0	中編物語	20	
生物	0	10	10	10	20	20	0	長編物語	10	413.5

ワット・ハー	教科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	教師用		総額・ドル
	クメール語	54	47	53	45	32	50		2	
算数	54	47	53	45	34	50		2		
社会	21	34	18	18	21	23		2		
生物	15	24	19	21	17	24		2		627,79



配布する教科書の山・かなり足りなかったことが分かります



校長先生自ら配布しています

2006年に私、大澤が両校の授業を参観した時、殆どの子供は熱心に授業を聴いている中、ぼんやりとしている子供がクラスに2、3人いて、その子たちは教科書を持っていなかったということがあり、それ以来教科書不足を気にしておりました。

一方、不足しているものを単純に補填するというやり方は、現地の自立という意味では余り好ましくないという考えもあり、スタッフの中でも意見が分かれていました。

今回実施することにしたのは、当会の規模から言って、この支援は身の丈に合ったものであり、不足もかなりの数で、支援すれば効果が大きいことは分かっているという理由からです。(大澤)

カンボジアの未来を変えるために教育は必要

——カンボジアのスタッフ、リティ氏は語る——

浅野麻里

私たちの支援活動は、日本側のスタッフとカンボジア側のスタッフとで行われています。現在、日本側で活発に動いているスタッフは10名前後だと思いますが、カンボジアで働いているのはカンボジア人のリティ氏、1名だけなのです。実を言うと私はこれまでミーティングを重ねる中で、支援の在り方、カンボジアでの活動状況など「このままでいいのだろうか」と疑問に思う時もありました。しかしずっと疑問を抱えていてもどうしようもない、何より現場を自分の目で確かめて来なくては——。そんな気持ちを胸に、



集まってきた子供たち

この夏初めてカンボジアに飛び立ちました。

空港で迎えて下さったリティ氏は、私たちの支援先と簡単なプノンペン観光に連れて行って下さいました。かつて私たちが識字学校をしていたアジア未来学校に立ち寄ると、めったに見ない外国人の私に子どもたちが目を輝かせ、写真を撮ってほしいとたくさん集まってきました。

去年、日韓アジア基金の出資金で建設された幼稚園の教室を見せ

て下さったリティ氏は笑顔で「一般的にはここに机が置かれるものですが、この幼稚園には置きませんでした。先生方と話し合い、子供たちが元気よく走り回れるようにフリースペースを多く取ったのです」と説明してくださいました。なるほど、確かに机はなく小さな椅子がいくつか部屋の壁際に並んでいるだけです。私たちの出資金が、リティ氏と先生方の協力の下で、ひとつの幼稚園として形になっているのだと実感しました。そしてリティ氏はくりかえし「支援者の方々には本当に心から感謝している、これからも責任を持って活動していきたい」と言っていました。

私にとって初めてのカンボジア訪問は、本当に得ることがたくさんありました。中でも一番心に残っているのは、リティ氏の「カンボジアでの教育」に対する真剣な思いです。

彼がツールスレンというポルポト政権時代の収容所に連れて行って下さった時、あまりの悲惨さに言葉を失ってしまった私は、ただひとこと「こうした拷問を同じ民族にどうして加えることができたのだろう、当時の社会状況によって狂ってしまった人が拷問したのかと思うと悲しくて言葉になりません」と漏らしました。するとリティ氏はこう言ったのです。

「ポルポトを支持し実際に拷問してきた人たちの中には、もちろん逆らったら殺されるという恐怖から行っていた人たちもいました。でも、残念なことにポルポトを支持し拷問を行った人の多くは、当時貧しい農村に住む無教育の10代の若者たちだったのです。若者

私たちは、知識人が悪であると叩き込まれ、このような悲惨な行動に走ってしまった……。私はこの経験から、教育の重要性を確信しています。今度こそ悲惨な歴史をくりかえさないために、教育支援はこの国に必要なことなのです」。

確かに、私たち日本人にとっては文字の読める世界が当たり前で、本を読みあらゆる価値観に触れられるのが普通です。しかし貧しい農村で育った彼らは、生活の苦しみを無くしてくれるかも知れない「希望に満ちたポルポトの教え」に従ってしまったのではないのでしょうか。何たることか、——日本人の私よりもずっと、根本的な教育の大事さを彼は認識していました。彼のその真剣な思いがこれほどまでにもというほど伝わってきたのです。これまでは漠然とアジアのために何かしたいと思っていた私。今は違います。

「リティ氏のため」と一緒に頑張りたい！これほどまでに自分の国の将来を変えようと立ち向かうリティ氏のためなら、いくらでも手伝いたいという気持ちになりました。

初めてのカンボジア訪問・・・今後も、自分は彼の思いのために頑張ろうという決意が本当に定まった旅になりました。

スタッフ紹介

会社員 市井秀治

初めまして。2009年6月より、スタッフとして活動に参加させて頂いております。

国際協力のNPOでの活動に興味を抱いたきっかけは、アジアの発展途上国への旅行で現地の人たちと接し、子どもたちの純粋さや心の優しさが強く印象に残ったこと、留学先のビジネススクールにおける他の留学生との交流、奨学生として参加した国際団体での活動、などなど多岐にわたります。そのようにして途上国の現状をより詳しく知るにつれ、ひるがえって自身の人生を振り返ると、「ひたすらに努力をすれば必ず報われる」という今まで当たり前のように信じてきた信念が、実際に当てはまる国・地域が世界の中でいかに少ないかということを実感しました。子どもにとって生まれた瞬間から多くの可能性が閉ざされているということは、あまりにも受け入れがたい現実であると思います。

私は今年で31歳になりましたが、日本人として、普通の家庭に生まれた自分自身が、社会や周囲の人々からこれまでに与えて頂いた多くのチャンスやご指導・ご支援に対して感謝の気持ちを強く感じると同時に、今まで社会から与えて頂いたことへの恩返しを、何かNPOの活動を通じてやっていければと思うようになりました。これまでは、そういった思いだけが先に積み重なり、仕事に追われる中、実際に行動に移すことができずにいたのですが、日韓アジア基金の存在を知るに至り、ここでの活動を皮切りに、今後、途上国の開発支援・国際協力に自分の持てる力を少しずつ割いて、自身の成長にもつなげていければと思っています。

今は、日韓アジア基金とその活動との出会いにとっても感謝しています。活動に参加してからまだまだ日は浅いのですが、プライベートな予定で、8月にカンボジアを訪れる機会に恵まれ、アンロンコンタマイ村の視察もさせて頂きました。日々の生活の困窮ぶりとは正反対な、子どもたちの無邪気な笑顔が今でも胸に焼き付けられていると同時に、今後、少しでもあの子どもたちの未来に光を与えるため、自分が役に立てればと強く願っています。

また、日韓アジア基金での活動とは別に、他の開発地域の視察の機会にも恵まれ、少しずつではありますが、カンボジアの置かれている状況や課題が、自分の中でもクリアになっていくのを日々感じており、そういった小さな気付きや知識・経験の積み重ねを、今後の活動にも活かして行きたいと思っています。



閉園になっていたアンロンコン・タマイ村の幼稚園がアジア未来学校の建物で再開されていました。

普段は会社員をしており時間的な制約はありますが、非力ながらも持てる力は最大限に活かして、活動に貢献していきたいと思っています。

また、日韓アジア基金の活動を支えて頂いている支援者の皆さまには、その尊いご支援に深く感謝しております。わたし自身、今後ともカンボジアを訪れる機会は何度もあると思いますので、支援者の皆さまのご支援がカンボジアの現地に実際に及ぼす、多くの「変化」を、少しでも目に見える形でお伝えできるよう、そのお手伝いも出来る限りやっていき

たいと思っています。また、将来は、本職の仕事の経験・知識とうまく融合させて、カンボジアを含めたアジアの途上国の開発支援を行う、社会起業をしたいと考えています。

日韓アジア基金で長く活動を続けて行き、その学びを次のステージにも活かして行きたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

ビビンの会のスタッフをして —第10回—

松尾あさみ

9月19日に行われたビビンの会で、私は初めてスタッフとして参加しました。

以前一般の参加者として参加して、その時もたくさんの方と交流し楽しい時間を過ごすことができました。

しかし、今回スタッフとして準備したり当日の運営に携わったりして、一般参加者の時とはまた違った楽しさを感じることができました。当日来て下さったたくさんの方々が、笑いながらおしゃべりしたり、ディスカッションで自分の国のことを楽しそうに伝えたりしている様子を見て、とても嬉しくなりました。

また、今回アンケートの集計も担当したのですが、多くの方から「楽しかった」「スタッフの方ありがとうございました」「また来たいです」などのありがたいお言葉を頂き、嬉しいと同時にやりがいを感じ、次のビビンの会への意欲もわきました。

今回のビビンの会では、日本、韓国だけではなく、マレーシアやカナダ、中国からもお客さまが来て下さり、ディスカッションでもより多くの、さまざまな意見や習慣などについての考えを交換することができました。発表の時には「へえ～」との声が多く聞かれ、皆さん新しい発見があったのではないかなと思いました。

今回のアンケートで頂いたご意見や感想などを元に、次回もたくさんのお客さまに「楽しかった」「また来たい」と感じていただける国際交流の場をつくりたいと思います。

どうして日本が好きなの？

キムヒスン（金喜淳） お茶の水女子大学大学院 ジェンダー社会科学

中学時代にある歌手さんに一目ぼれして以来、私は日本のCDやグッズをこっそり買いに行ったり同じ仲間を探して交流したりしていました。しかし、それは禁じられた恋でした。(笑) 当時の法律上、日本のCDは輸入禁止。周りの人に「今この人が大好きなの！」などと明かそうものなら、いぶかしげな視線を投げられたり、「どうして日本の歌手が好きなの？」など、けんかごしになることも度々ありました。

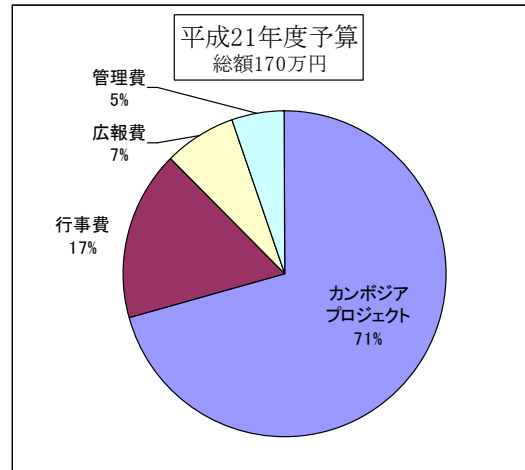
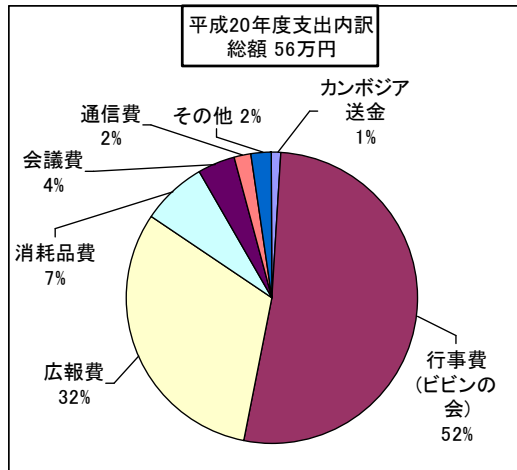
いま考えると、かれらの疑問・不快感の基は、「どうして日本が好きなの？」、より正確には、「どうして（憎むべき）日本が好きになれるんだ？」ではなかったでしょうか。彼らのほとんどは善良な人で、実際日本人に会ったときには悪さの一つもできやしない人たちです。ただミヨンドンでよくみかける日本人観光客やあるいは隣に住んでいる交換学生鈴木さんと、「日本」という国は、どこかで線引きをしている。根っこから「日本」という国は嫌いで、「（韓国人として）日本は好きになってはいけない国」になっていたようです。何が、善良な普通の韓国人に「日本」を嫌いにさせるのか。どうして「日本は好きになってはいけない国」にさせるのか。原因は、みなさんの想像どおり、歴史問題です。どこまでが問題にならない歴史で、どこからが「問題」となる歴史かについては注意したいところですが、植民地支配、第二次世界大戦、まだまだ犠牲者がいて、残された家族の記憶に新しい。韓国にも中国にも戦争の爪あとが数々残っています。もちろん過去にそういうことがあったという事実と、だから日本が嫌い、是一直線にはつながらない事柄です。私が思うに、ポイントは「そういうことがあった」よりも、「そういう事実があったことを否定している」が大きい気がします。「従軍慰安婦」問題一つを見ても、日本政府は最後の最後まで国家の責任を否定しています。

「責任」という言葉はまた日本と韓国で温度差があるように思いますが、韓国人にとって戦争とは、地震のような自然の災害ではなく、誰かが意図を持って起こしたものです。外部からの侵略を受けたからでしょうか。戦争には当たり前責任が伴うものなのです。靖国神社問題で日中韓でもめていた最中、日本のホームステイ先のおじいさんが「戦争で亡くなった方々を祭っているのだから、中国も韓国も理解してほしい」と言うのを聞いて、びっくりしたことがあります。確かに、日本人でも韓国人でも戦争で惨い死を迎えた人々がたくさんいます。私はそこで、じゃあ誰が彼らを死に場所に追いやったの？と責任を問いたくなるんです。だから、「戦争で亡くなった」ということばで、戦争を起こした人、望まないのに動員されて死んだ人（より正確には、殺した人と殺された人）を一緒にするのは飛んだ迷惑だと思ってしまいます。日本人の死生観では、死者にそこまでやるのは可哀想だと言う方がいるかもしれません。ところが、中国起源の刑罰だと思われませんが、朝鮮には「戮屍」といって、遺体を墓から掘り出して斬首する刑罰がありました。儒教的世界観では、人間は死んだだけで神になってなれず、生前の罪から逃がれることはできませんでした。罪を犯したら、死後でも問われます。それなのに、責任まで及ばずとも、過去の歴史を事実として認めることさえしない。そういうことを踏まえると、韓国人の目からすれば、日本ほど悪い国はないのです。（苦笑）

「Uri（われわれ）」ということばで象徴される韓国人アイデンティティは、「Uri」と「Uriでない者」を徹底的に区別します。違う意見をもつ者を排除することで、より強化されます。「日本が好き」などという人は、「Uri」ではない、と否定されてしまう恐れがあります。そういった雰囲気なかで、「日本が好き」なんて、とても言える訳がない。何かしらの理由で、日本の何かが、日本が好きになってしまった韓国人は、どのみち韓国人として信仰告白をさせられ、アイデンティティの再構築を試されることになります。

お金の使い道を中心にした会計報告の説明

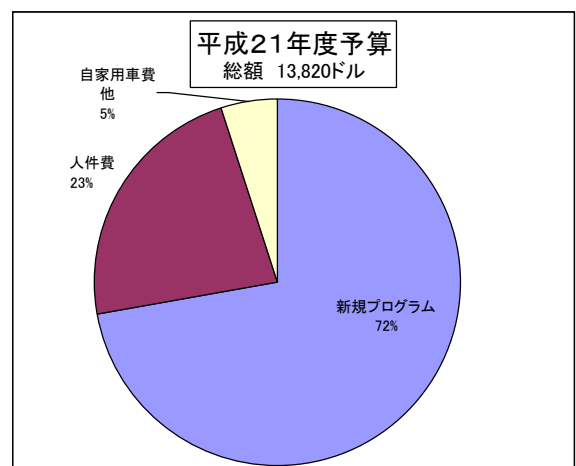
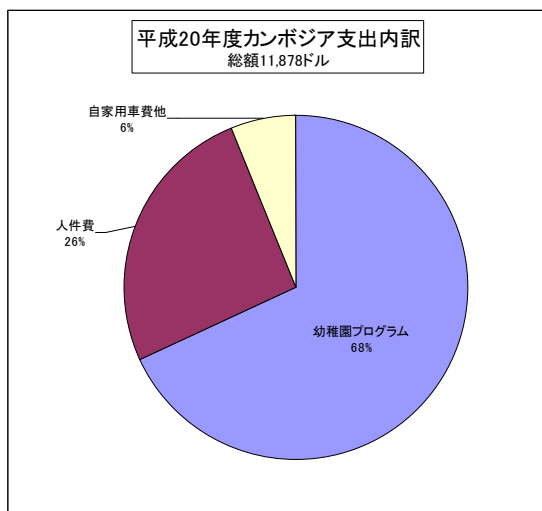
日本



- 1 当期の最大の特徴は、前期にカンボジアに290万円を送金したため、当期に送金の必要がなかったことです。
- 2 項目番号№14の6,430円の送金は、代表の禹が上海で頂いた寄付で、カンボジアに直接持参したものの内、帳簿上日本会計に計上したものです。
- 3 収入は、事業収入を除くと98万円で、この99%は会費、寄付金です。助成金、補助金は受けておりません。
- 4 事業収入と行事費支出の差額は1,942円です。
- 5 支出全体に占める事業費の割合は85%で、例年に比べ管理費の比率が上がっています。
これは1で述べた様に、カンボジアへの送金が非常に少なかったためです。
- 6 広報費の内訳は、ニュースレター発行10万円、当会ロゴ入りTシャツ3万円、イベントブース出展費2万円、年賀状2万円が主なものです。Tシャツはイベントでのボランティアスタッフの参加が増え、数が足りなくなることがあるため追加しました。

- 1 カンボジアプロジェクト: 120万円
- 2 行事費: ビビンの会4回/年・29万円
- 3 広報費: ニュースレター10万円・グローバルフェスタ2万円他
- 4 管理費: 消耗品費4万円・会議費2万3千円・通信費1万2千円他

カンボジア



- 1 幼稚園プログラムの支払金額は、工事代金残額6,387ドル・遊具、備品850ドル・フェンス工事費422ドル・什器304ドル・トイレ改修費130ドルが内訳です。
- 2 人件費はアジア未来学校教員給与の最後の支払い60ドルとリテイ氏の給与です。
リテイ氏の給与は現地のインフレに対応し、2008年9月から60ドル上げ260ドル/月としています。
- 3 自家用車費の内訳は燃料代330ドル・整備代140ドル・駐車料金120ドルが主な内容です。

- 1 新規プログラムはスクールバスと不足教科書補填です。
- 2 人件費は、リテイ氏給与260ドル/月の12カ月分です。

12月19日(土) 第11回ビビンの会を開催します。

12月19日(土) 14時から17時

アジア文化会館101教室

会費無料・1000円～2000円のお菓子をお持ち下さい。

終了後、有志による懇親会を開催します。20時終了予定。

会費 社会人 2,000円 学生 1,000円 留学生 500円

お申し込みはEメールで jkaf@ml.infoseek.co.jp まで。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略)

8月2日 ニュースレター30号 発送作業要員

及川 正美・小田 知春・甲斐 優奈・金井 知佳・川田 有美・金 慧源・金 慧珍・塩田 亨・長沼 千明・
細谷 勇治・松尾 あさみ・本宮 慎吾・油田 奈緒子

9月19日 第10回ビビンの会 グループリーダー

秋山 卓澄・甲斐 優奈・高藤 里紗・福本 愛・松尾 あさみ・森 蓉子

10月3日・4日 グローバルフェスタ JAPAN 2009 ブーススタッフ

小口 美佳・佐久間 早苗・杉目 雄太・鈴木 潤子・高藤 里紗・高橋 幸生・濱本 聡司・原口 彩・
細谷 勇治・松尾 あさみ・松原 大悟・本宮 慎吾・安田 智栄・横地 孝典

09年7月22日～11月2日に会費・ご寄付を下された方 敬称略・別枠を除き五十音順

油谷 友加	榎本 亮三郎	金澤 潤子	鈴木 香子	中田 美智子	峯村 公雄
荒川 雄彦	江本 哲也	川崎 由紀子	世利 スガ子	福本 正勝	矢崎 芽生
市井 秀治	大澤 龍	菊池 貞子	滝波 力	細川 敦子	柳田 文子
岩見 豊子	大塚 紀子	黒巣 香	健石 睦子	松井 ふみ子	山本トシミ
内田 雄之	小原 勝子	小久保多美子	千葉 眞衣子	松本 昌幸	

ボランティア野菊の会

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)

賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)

法人会員:年会費1口10万円

ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

Eメール: jkaf@ml.infoseek.co.jp HP: iloveasiafund.com/japan/

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也